

Q.C.M.リテナーワイヤ Q&A

Q1 作製の際、模型にセロハンテープがくっつきません

A. まず、模型が乾燥しているかチェックしてください

それでもくっつかない場合には、オートクレーブの時に使う、滅菌テープを使う事をお奨めします

Q2 圧接がうまくいきません

A. 以下の点をチェックしてください。数秒で唇側線が柔らかくなり、圧接ができます

<チェックポイント1>

ドライヤーのワット数をチェックしてください。800W 以上のタイプが圧接できるワット数の目安です

<チェックポイント2>

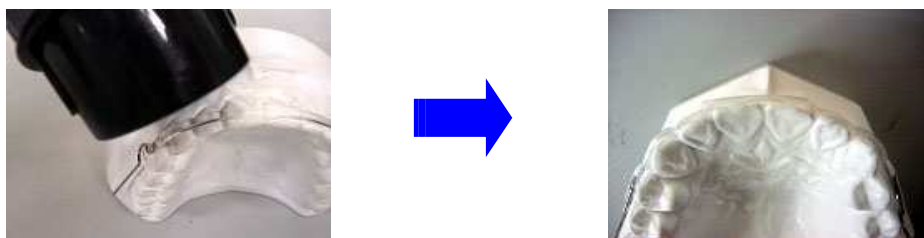
送風口にカバーがついていませんか？ドライヤーの送風カバーを外してみてください

(※注)熱風の出口から送風口までの距離が長いと、ワット数が大きてもうまく圧接できない(熱量が足りない)場合があります

<チェックポイント3>

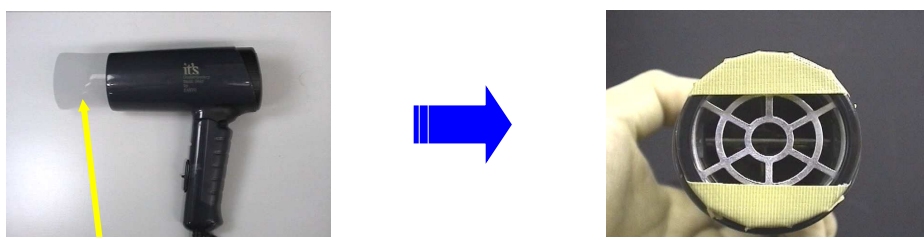
唇側線からドライヤーの送風口が離れすぎていませんか？

ドライヤーの熱をあてる際、送風口を 1 cm程度に近づけて圧接してください



<送風口の工夫>

上記の点をチェックしても上手く圧接が出来ない場合、下記のように送風口を工夫してください
カバーを外した後、送風口をガムテープなどの耐熱性のあるもので塞いでください



送風口のカバーを外す

送風口を小さくする

(※注1) ヒューズが切れないよう注意してください

Q3 鑑着箇所が外れます。外れにくくする方法は？

A. 鑑着箇所をカーボランダムポイントなどで目荒しし、鑑着する事をお奨めします

(※注1) 鑑着箇所の手のお油等をふき取ってください

(※注2) 酸化膜を取る際、鑑着部に傷をつけないよう注意してください

(※注3) 鑑着の際にはプラスチック唇側線と床を熱緩衝作用のある固定剤でカバーしてからおこなってください

熱緩衝作用のある固定剤 製品名 : ファインソルダー/株アソインターナショナル

※ 金属部をクロスさせず、完全に隙間のないよう平行にバンドしてワイヤ通しの接触面積を増やすことをお奨めします



Q4 Q.C.M.リテーナーに緩みがでた場合の調整方法

A. 以下の手順で調整してください

①左右のループをしめて緩みを調整してください

②を作製した“石膏模型”があれば Q.C.M.リテーナーを模型にあわせて唇側線にドライヤーの熱をあてて作製時同様に圧接してください

(※注) プラスチック唇側線と金属ワイヤをジョイントするタイプはドライヤーの熱風では圧接できません
ループで調節してください



ループをしめて緩みを調節



ドライヤーの熱風をあてる

(※注)
プライヤーで樹脂部を把持しないでください

Q5 プラスチック部や床が汚れてきた場合にリテーナー洗浄剤を使ってもいいですか？

A. 強アルカリ性の洗浄剤は使用しないでください

基本的には毎日水洗いすることで、汚れや歯垢の付着が防げます。患者さんに指導をしてください
ご使用可能な洗浄剤については、「Q.C.M.リテーナーワイヤの取り扱い上の注意点」をご覧ください

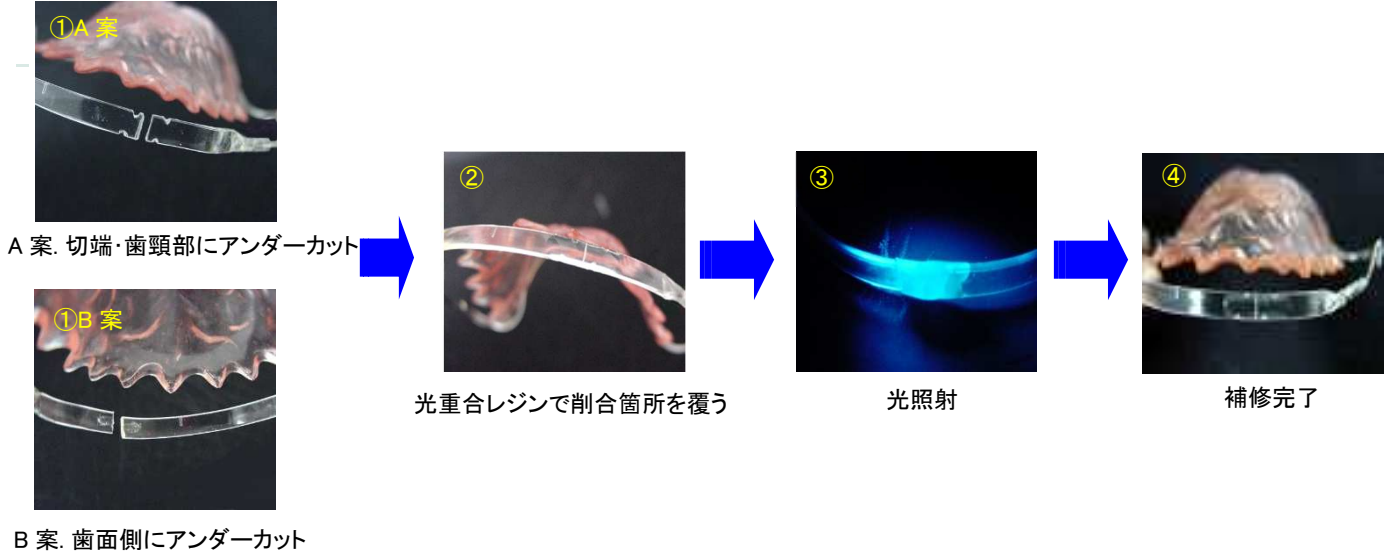
(※注) プラスチック部の汚れがひどい場合は、エンジンやタービン等を 5,000rpm 以下の低回転(3,000rpm程度)
にして、目の細かいビッグシリコンポイント等で軽く削り落としてください



Q6 破折したリテーナーの補修方法は？

A. 応急処置として以下の手順で補修してください

- ①破折した両側にアンダーカットをつける(A、B案が複合されているケースもあります)
- ②光重合レジンで接合箇所を覆う
- ③光照射する
- ④補修完了



※Q.C.M.リテーナーをご採用頂いている先生方からのアイデアをお借りしました

【お問い合わせ先】 チカミルテック株式会社 TEL:088-822-1181